

姫路赤十字病院だより



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society



contents

- 災害拠点病院について
- 赤十字の救護班について
- DMAT活動について
- 外来化学療法室
- ICUについて
- 放射線治療受入れ休止について
- 診療科の紹介：内科・循環器内科
- 平成25年度 姫路赤十字病院 研修会開催予定一覧

Vol. **2**
2013

災害拠点病院について

阪神・淡路大震災の翌年となる平成8年に当時の厚生省によって「災害時における初期救急医療体制の充実強化を図るための医療機関」として全国の主要な病院に「災害拠点病院」が指定されることとなり、ここ中播磨地域の中核病院として姫路赤十字病院が指定を受けました。

災害拠点病院の主な役割は、災害発生時における24時間体制での被災地内の傷病者の受け入れおよび搬出、医療救護班の派遣です。当院では常時、日赤救護班5チームに加え、厚生労働省に認定されたDMAT3チームが災害に備えています。広域災害・救急医療情報システム(EMIS)を活用し、災害時の医療情報の確保(連絡・収集・発信)に努めています。中・西播磨地域で災害が発生した場合は、行政機関や消防だけでなく、近隣の災害拠点病院や医師会災害対策本部とも連携をはかり、この地域の医療機関や救護所

からの被災者の受け入れ拠点として、重症患者を中心に受け入れます。広域搬送が必要な場合は屋上のヘリポートも使用します。また、災害拠点病院に必要な、衛星電話、災害備蓄倉庫、自家発電機設備、備蓄水槽なども設置しています。

今後発生が懸念される山崎断層帯地震や南海トラフ巨大地震の大規模広域災害に備え、平時から災害訓練を重ね、院内でもトリアージ研修会やこころのケア研修会などを開催し、全職員が被災者の救命や救急治療に最大限対応できるように準備しています。

(救急部長 八井田 豊)



赤十字の救護班について



赤十字病院と他の医療機関との違う点は、災害等が発生した時、「医療救護班を迅速に派遣し救護にあたる旨」がさまざまな法律で決まっていることです。

全国の赤十字病院に医療救護班が置かれ、兵庫県内では15個班あり、当院も常時5個班が災害に備えています。

救護班の構成は、医師1名、看護師長1名、看護師2名、主事（運転要員等）2名の6名で編成されていますが、近年の災害の多様化から必要に応じ「こころのケア要員」や「薬剤師」も帯同するようになりました。

平成7年の阪神・淡路大震災以降だけでも、「台風23号での円山川沿線の水害による避難所活動」「新潟県中越地震での救護活動」「尼崎のJR福知山線脱線事故現場への派遣」「台風9号での佐用町の水害による臨時救護活動」「東日本大震災での病院支援・巡回診療」など各地で頻発する災害等に対し当院からも多くの救護班（職員）を災害現場に派遣し、医療救護活動を行っています。

（社会課長 大西 勝彦）



DMAT活動について

DMAT (Disaster Medical Assistance Team) とは、大地震および航空機・列車事故等の災害時に被災者の生命を守るため、被災地に迅速に駆けつけ、救急治療を行うための専門的な訓練を受けた医療チームのことで、阪神・淡路大震災後に誕生しました。現在、当院では3チームが厚生労働省に認定されています。DMATの具体的な任務は、被災地域内での医療情報収集と伝達、トリアージ・応急処置・搬送、医療機関の支援、広域搬送拠点医療施設 (Staging Care Unit) における医療支援、広域航空搬送の搭乗医療チーム、災害現場でのメディカルコントロールなどです。

平成25年9月1日に夢前スポーツセンターで行われた兵庫県・播磨広域・姫路市合同防災訓練では、当院から日赤救護班だけでなくDMATも参加し、SCUで活動しました。

（救急部長 八井田 豊）



ZOOM
UP

外来化学療法室



【スタッフ紹介】

外来化学療法室長	平松 靖史 (血液・腫瘍内科部長)
専任薬剤師	島田 健 (がん薬物療法認定薬剤師)
応援薬剤師	大里 勇二 福山 正人
専任看護師	石原 里美 (がん化学療法看護認定看護師) 平井 香恵 志水 真弓 坂東 陽子 久松 弥生 森川 奈美

■ 外来化学療法室について

平成18年12月に13床で開設し、地域がん診療連携拠点病院としての役割を受け持っています。生活の中になん治療を取り込むことで、がん患者さんの生活の質を維持し、日常生活を継続しながら安全、確実に治療を続けられることを目標としています。治療のレジメンは、院内の化学療法適正検討委員会で検討され、承認を受けています。

外来化学療法室は、専任の薬剤師・看護師が常駐し、患者さんが安全に化学療法を継続できるよう個々の治療スケジュール・投与量・副作用について確認し多職種で関わっています。

患者さんには、治療開始前までに化学療法オリエンテーションを受けていただき、疾患や治療方針の理解を深めていただきます。薬剤師は、投与スケジュールや抗がん剤の副作用についての説明とミキシングを行っています。看護師は、抗がん剤投与中の患者さんの状態観察、点滴の投与管理を行っています。また、副作用の対処方法についても指導・ケアの方法を共に考え、患者さん自身が症状マネジメントを行えるように支援しています。これからも、外来で化学療法を受けながら、その人らしい生活を送れるように多職種で協力をし患者さん、家族の方を共にサポートしていきたいと思っています。

対象の患者さまがいらっしゃいましたら、それぞれの疾患の担当科にFAXでの受診予約をお願いいたします。

■ 外来化学療法実績(平成24年)

外来化学療法実施件数5713件(月平均476件)
 診療科別実施件数 血液内科1310件、消化器内科416件、
 乳腺外科1623件、消化器外科1833件、呼吸器14件、泌尿器科
 143件、婦人科36件 (外来化学療法室長 平松 靖史)



ICUについて

ICUは平成25年6月より2床増床となりました。今回増床の2床は個室ではありますが、今まであった個室と違い、空調の陰圧・陽圧管理はできません。他の個室よりも少し小さめのお部屋になっています。

以前からICUでは入退室の合間のベッドを活用して、術後の回復室代わりの使用や、慢性透析の対応、中心静脈カテーテル類の挿入など行っていましたが、徐々に件数が多くなり病床以外の場所に対応するようなことがありました。今回増床された2床を有効に利用し、安全に医療の提供が行えるようにしたいと思っています。

また、今年度は心臓血管外科の手術が予定されています。心臓血管外科医、麻酔科医の協力のもと学習会を予定し、安全に術後患者さんの看護が提供できるように準備を進めています。

今年度のICUは「患者家族へタイムリーに適切な医療を提供する」を目標に掲げました。その方策として、毎朝の麻酔科医・看護師の合同カンファレンスの継続、ICU入室後の定期的な多職種カンファレンスの実施、パートナーシップ・ナーシングを導入し、複数患者の複数担当を実施することなどを挙げています。ICUに入室している患者さんに関わっている職種の皆様にカンファレンスへ参加していただき、大変有意義なカンファレンスを行うことができます。

今後も患者さんの「今」と「これから」に必要な医療と一緒に検討していただけますようご協力を宜しくお願い致します。

(病棟師長 今川 真理子)



放射線治療受入れ休止について

放射線治療装置の老朽化および部品供給停止に伴い、今年度に放射線治療装置が更新されることとなりました。

この更新に伴う工事により、約7ヵ月程度の間は放射線治療が行えません。

また、この工事に先立って、本年8月末頃より順次、疾患別に放射線治療の受け入れを休止いたしております。ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解をいただき、ご協力をお願いいたします。

なお、放射線治療開始は平成26年6月を予定しております。

(放射線科部長 三森 天人)

診療科の紹介

内科

【スタッフ紹介】

上坂 好一 副院長兼第一内科部長
(昭和49年卒／消化器(消化管))

多田 寛 血液・腫瘍内科副部長兼
医療社会事業部長
(昭和52年卒／血液)

奥新 浩晃 第二内科部長
(昭和54年卒／消化器(肝))

森下 博文 第一消化器科部長
(昭和55年卒／消化器(消化管))

高谷 昌宏 第二消化器科部長
(昭和63年卒／消化器(消化管・胆膵))

森井 和彦 第三内科部長
(昭和63年卒／消化器(肝))

吉永 文哉 第三消化器科部長
(平成元年卒／消化器(消化管))

平松 靖史 血液・腫瘍内科部長兼
外来化学療法室長
(平成4年卒／血液・腫瘍)

高木 慎二郎 第一消化器科副部長
(平成5年卒／消化器)

香川 英俊 腎臓・膠原病内科部長
(平成8年卒／リウマチ・膠原病)

廣政 敏 腎臓・膠原病内科副部長
(平成8年卒／腎臓)

山中 龍太郎 腎臓・膠原病内科副部長
(平成14年卒／リウマチ・膠原病)

岸田 裕志 医師
(平成15年卒／消化器)

高田 斎文 医師
(平成19年卒／内科一般)

山本 岳玄 医師
(平成20年卒／内科一般)

長谷川 詠子 医師
(平成20年卒／内科一般)

藤澤 諭 修練医
(平成23年卒／内科一般)



当科の診療方針

内科では、肝臓、消化管、胆・膵、血液、膠原病、腎の領域において専門的診療を行っています。また、非常勤ですが糖尿病は毎日外来診療をしています。いわゆる先端医療は行っていませんが、現在の保険診療でできる範囲での最先端の医療を提供したいと考えています。

肝臓領域：肝生検、多数の慢性肝炎のインターフェロン療法、また、肝癌にはRFA, TACEを施行しています。

消化管、胆・膵領域：最近、内視鏡による観察もそうですが、各種検査・治療処置が著しく発達しています。超音波内視鏡、ERCP, 小腸内視鏡、カプセル内視鏡、上部・下部消化管のESDとEMR, 緊急止血術、食道静脈瘤に対するEIS, EVL, 総胆管結石碎石術、悪性胆道狭窄に対するステント術、膵内視鏡などをルーティンに施行しています。

血液領域：白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫など全国有数の症例数が集積し、3人の医師では対応の限界を超える程です。また、自己末梢血幹細胞移植も年間5件(H24年)施行しています。

膠原病領域：外来は週4回あり、必要に応じて入院治療としていますが、安定した患者はできるだけ地域の先生にご紹介させていただいています。

腎領域：腎生検を毎年60例以上施行しています。腎不全が進行した場合は慢性透析ができませんので、透析専門施設に紹介させていただいています。糖尿病は非常勤医により毎日外来診療をしています。できるだけ早い時期に常勤医を確保したいと考えています。

地域の医療機関の先生へ

上記のようにまだ内科の診療体制は必ずしも十分ではありませんが、私どもの今できる範囲で先生方のご期待に添いたいと考えていますので、今後ともよろしく願いいたします。

(第一内科部長 上坂 好一)

診療実績

7領域において平成24年度は外来患者延数48,375人(一日平均198人)となり、入院患者も延数38,377人、平均在院日数16日となっております。

複数ある専門性を生かし診療科内の連携を密に総合的な診療を行っています。



診療科の紹介

循環器内科

【スタッフ紹介】

向原 直木 第一循環器内科部長
(昭和58年卒/循環器内科一般)

平見 良一 第二循環器内科部長
(平成3年卒/循環器内科一般)

藤尾 栄起 第一循環器内科副部長
(平成7年卒/循環器内科一般)

湯本 晃久 第二循環器内科副部長
(平成7年卒/循環器内科一般)

橘 元見 第二循環器内科副部長
(平成14年卒/循環器内科一般)

当科の診療方針

循環器内科は、安全で安心できる全人的医療を実践します。当科の診療内容は、心臓疾患(狭心症、心筋梗塞、心不全、不整脈)、血管疾患(大動脈瘤、動脈硬化症、静脈血栓症)並びにそのリスク因子(高血圧、脂質異常症、喫煙など)の的確な診断・治療を柱としています。これら循環器疾患には、突然発症し、生命を危険に陥れる病気が多く、我々は迅速に対応できるよう心掛けています。

当科の取り組み

心臓血管外科が新設されました。心臓血管疾患の内科・外科治療をトータルに出来ることに加えて、心臓血管外科医を交えて一例一例治療適応を詳細に検討出来るようになり、診療の質、幅が格段に向上します。我々は、常に診断技術を磨き、カテーテル治療や薬物治療のスキルアップに努めています。さらに、総合病院の強みを活かして、病気の予防~急性期治療・リハビリ~再発予防に至るまで、多職種によるチーム医療を推進しています。



地域の医療機関の先生へ

平素よりご高配賜り、厚く御礼申し上げます。

循環器内科病棟は、新しく開設になった3階東病棟、ICU/CCUにあり、定床30床となりました。患者様の診療を通して、地域の先生方と顔の見える、温かみのある連携を築きたいと希望しておりますので、ご遠慮なくお声掛け下さい。今後とも宜しくお願い致します。(第一循環器内科部長 向原 直木)

診療実績

心臓カテーテル検査数:	341件
内緊急	34件
経皮的冠動脈形成術:	117件
内緊急	34件
経皮的末梢血管形成術:	8件
ペースメーカー植込み術:	20件
心臓超音波検査:経胸壁:	6797件
冠動脈CT(64列)	: 104件
ホルター心電図	: 544件
心臓核医学検査	: 388件

平成25年度 姫路赤十字病院 研修会開催予定一覧

研修名	開催場所	対象者	定員	開催日程	締め切り
第20回地域連携カンファレンス(外科・眼科)	多目的ホール	医師、看護師 コメディカル等 医療関係者	なし	平成25年5月16日(木) 17:30~19:00	開催終了
がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会	大会議室	医師、看護師、 薬剤師等	医師:24名 看護師、薬剤師等: 若干名	平成25年5月18日(土) 19日(日)	開催終了
がん化学療法セミナー	多目的ホール	臨床研修医、医師 薬剤師、看護師	なし ※申込み多数の場合はお断り する場合がございます	平成25年5月30日(木) 31日(金)	開催終了
ICLS西播磨 姫路赤十字病院コース	会議室	医師、看護師、 助産師	18名	平成25年6月13日(土)	開催終了
第11回新生児蘇生法講習会	多目的ホール	医師、看護師、 助産師	24名	平成25年6月29日(土)	開催終了
化学療法看護研修会	多目的ホール	看護師 ※がん化学療法セミナー を受講された方	看護師:20名程度	平成25年7月2日(火) 19日(金)	開催終了
第21回地域連携カンファレンス (放射線科・歯科口腔外科)	多目的ホール	医師、看護師 コメディカル等 医療関係者	なし	平成25年9月19日(木) 17:30~19:00	開催終了
緩和ケアフォローアップ研修会	多目的ホール	医師、看護師、 薬剤師等	30名程度	平成25年9月29日(日)	開催終了
看護師緩和ケア研修会 (ベーシックコース)	多目的ホール	看護師	20名程度	平成25年10月2日(水)22日(火) 11月12日(火)	受付終了
第12回新生児蘇生法講習会	多目的ホール	医師、看護師、 助産師	24名	平成25年10月19日(土)	開催終了
ALSOプロバイダーコース	大会議室	医師、看護師、 助産師	25名	平成25年11月16日(土) 17日(日)	受付終了
第22回地域連携カンファレンス (産婦人科・麻酔科)	多目的ホール	医師、看護師 コメディカル等 医療関係者	なし	平成25年12月19日(木) 17:30~19:00	
看護師緩和ケア研修会 (アドバンスコース)	臨床研修棟 セミナールーム	看護師 ※ベーシックコースを 受講された方	ベーシックコース 受講者の中から希望 される方	平成26年2月4日(火) 18日(火)25日(火)	
放射線治療に関する研修会	多目的ホール	医師、放射線技師、 看護師等	なし ※申込み多数の場合はお断り する場合がございます	平成25年11月7日(木)	10月31日
がんの早期発見に関する 研修会(超音波実技講習会)	多目的ホール	医師、 臨床検査技師	30名程度	平成26年2月20日(木)	2月14日
第23回地域連携カンファレンス (皮膚科・循環器内科)	多目的ホール	医師、看護師 コメディカル等 医療関係者	なし	平成26年3月13日(木)	

■ 編集後記

医療機関向けとして8月より「姫路赤十字病院だより」発行しておりますが、いかがでしたでしょうか。ゼロからの企画であったためデザインや紙面構成等を何度も作り直しながら出来たものです。もっといい紙面をとの思いで、アンケートを同封させていただきました。多くのアンケート回答を頂き、好意的なご意見も多くあり担当者としてうれしい気持ちです。担当者一同これに甘んずることなく少しでも読みやすく当院に興味をもっていただける紙面作りに努めてまいります。(地域医療連携課長 前田 智成)

姫路赤十字病院の理念と基本方針

理念

『わたしたちは、医の倫理と人道・博愛の赤十字精神に基づき、心のかような安全で良質な医療を実践します。』

基本方針

1. 患者中心の医療
患者の人権と意思を尊重し、説明と同意により患者とともにチーム医療を推進します。
2. 災害医療の充実
国内外の災害救護活動に積極的に取り組みます。
3. 地域との連携
地域と連携し、高度専門医療・急性期医療・救急医療をととして、地域中核病院の責任を果たします。
4. 優れた医療人の育成
人間性豊かな医療人を育て、教育・研修・研究の推進により、医療水準の向上に努めます。
5. 魅力ある職場づくり
職員の働きやすい環境づくりに努め、誇りある職場を創ります。
6. 健全経営
健全経営を持続し、医療活動を通じて社会に貢献します。

患者さんの権利と責務

患者さんの権利を尊重します。

1. 安全で良質な医療を公平に受けることができます。
2. 十分な説明と情報提供を受けることができます。
3. 他の医療者の意見(セカンドオピニオン)を求めることができます。
4. 自分の意思で、治療方針を自由に選択・決定することができます。
5. 自己の診療情報の開示を求めることができます。
6. 個人情報やプライバシーの保護を受けることができます。

患者さんには安全で良質な医療を受けるために守っていただくことがあります。

1. 患者さんの健康に関する情報を正確に提供してください。
2. 診療内容を十分理解し、納得した上で医療を受けてください。
3. すべての患者さんが適切な治療を受けられるよう、病院の規則や指示を守ってください。